

公益社団法人いわき青年会議所
2023 年度 理事長総括

2023 年度基本方針に沿って総括する。

【多様な会員が共に活動できる柔軟な組織運営】

組織というのは一人では実現できない目的を達成するために存在するものです。組織の存在理由は目的の達成であり、青年会議所でいえば、明るい豊かな社会を実現すること、今年のいわき青年会議所で言えば、誰もが前向きに生きるいわきを創ることです。組織のカタチや在り様というものは、その目的を達成するための手段の一つでしかありません。時代や社会、メンバーの数や状況などの様相に合わせ柔軟に変化してしかるべきと考えます。そのような考えのもと、私たちは本年、組織風土の改革を目指して活動してきました。個人の資質や環境に頼った組織運営から、多様な背景、価値観、経験を持つ人々が共存し、それぞれの個性を最大限に生かしながら、共通の目的のために協力する運営へ方向転換する必要があります。青年会議所が社会に与える影響を最大化し、真に価値ある運動を行うためには、この多様性を受け入れ、活かすことが必要不可欠です。そのような想いから一年間活動してまいりましたが、改革は限定的であったと感じています。理事役員を中心に考え方の理解は進み、より柔軟な活動ができたと考えますが、あくまで限定的なものであり、フロアメンバーにまで浸透していたかという点については、疑問を感じざるを得ません。今後も継続して意識改革を行っていく必要があるものと思料します。

【前向きな心を持った次世代に繋がるリーダーの輩出】

青年会議所は故郷をよりよくしていくため、次世代のリーダーを常に発掘し、育てなければなりません。そのためには、多くの会員に青年会議所の理念を共有し深めると同時に、その理念を実現しようとする場を実体験として感じる事が重要です。本年は新入会員にも役目を与え、彼らが参加しやすいフィールドを創り、彼らが孤独にならないような組織運営を行うことができました。その結果として多くの新入会員がアクティブとなり、次年度のスタッフとなった事はとても喜ばしいことです。一方で、既存会員を前向きな心へと変えることはできなかつたと考えます。一度、一方向に向けられた思考は、簡単に変えることはできません。来年入会する新入会員を特に大切に、彼らによりそった組織運営を心掛けるべきであると考えます。

そして出向というフィールドでも次世代のリーダーが多くを学び帰ってきました。LOM にとっての出向のメリットとは、LOM の人財がいわきだけでは得られない学びを得て帰ってくることです。そして LOM に戻ってきてから、得た学びを使ってどのような貢献を

するかが大切です。本年出向したメンバーは多くの学びを得て、次年度の活動へ向けて準備を進めています。

また、本年度の目標の一つに、会員のまちづくりに対する意識改革を行うことがありました。いわき青年会議所の先輩方は、故郷をより良い街にしていこうと、様々な運動発信を行ってこられました。アクアマリンの誘致しかり、道路整備しかり、何年もの時間をかけながらその運動は実を結び実際に街を変えていったのです。そしていわきの街の構造を変えるような、大きな運動は我々現役世代が起こしていくべきです。そのためにも、今一度会員全員にまちづくりに対して考えてもらうために、高校生との市長提言ワークショップを実施させて頂きました。残念ながら台風という事態が発生し、規模や内容を縮小しての実施となってしまいましたが、多くのメンバーが高校生とふれあい、まちづくりの基礎を学んで刺激を受けた事は、大きな意識改革になったものと考えます。次年度以降、会員が自らまちについて考えるような組織になっていって貰いたいと期待しています。

【子どもたちの自信と成長につなげる機会の提供】

人づくり事業は、グランドデザインで「未来社会を強く生きるための人財育成」が示されているように、いわき青年会議所の運動の主軸であり、一丁目一番地とも言える事業です。予測不可能なほどの速度で変化する未来社会においては、画一的な知識よりも、変化に対応し問題をしなやかに乗り越える力が重要です。本年度は子供たちのレジリエンスを高めることを目的として、体験活動の重要性を地域へ向けて発信しました。事業に参加した子供や大人たちには多様な体験活動の重要性は十分に伝わったものと考えます。しかし一方で、なぜ体験活動が重要なのかというロジックが伝わりきらず、多くのメディアや団体を巻き込んだ市民レベルでの発信までは届かなかったように感じます。家庭ごとの収入格差などによって、子供たちの体験格差は広がっています。そしてそれが子供たちの健全な心の成長に格差を生じさせる大きな問題であるという事は、まだまだ社会に浸透していません。次代を導く旗手として、これからのいわき青年会議所がこういった問題にしっかりと切り込んでいける組織となる事を期待しています。

【いわきを一つに繋ぐ希望のシンボルの浸透と発展】

いわき青年会議所が長年取り組んできたイルミネーション事業は、復興と共生、震災の風化防止、そしていわきに暮らす人々と力を合わせた共創のまちづくり、とその趣旨を変化させながら続いてきました。本年度は「共創のまちづくり」を発信するため、昨年よりもさらに多くの団体と連携した甲斐もあり、多数のメディアに取り上げられ、我々の事業にかける想いを伝えることができたと考えています。青年会議所の運動は、単年度制の弊害により、成果を出す前に数年で閉じてしまうことが多々あります。本年の取り組みが大きい

く取り上げられたのは、委員会の努力とともに、長年いわき青年会議所の先達たちが積み上げてきた実績によるものだと思います。ともすれば LOM にとっての負担と言われかねない本事業ですが、このイルミネーションという場を大いに利用し、我々が街に伝えるべき運動発信の力としていきたいと思います。

【災害に対応できる組織体制の構築】

あの東日本大震災から 12 年。いわき青年会議所は有事に際して行動できる団体として、社会福祉協議会との連携協定から始まり、いわき市との防災連携協定、毎年 3 月に行われる例会での交流や意見交換など、防災体制の構築に努めてきました。そんな中、9 月に発生した台風災害は、まさに日頃の活動が試される事態でした。総じて理事役員を中心に、求められる様々な支援活動に対処できたと考えていますが、フロアメンバーへのアプローチが足りず、中心となるメンバー以外に支援活動を理解して貰えていたか疑問が残りました。今回の災害は、東日本大震災や令和元年台風と比較すれば被害は小さかったのですが、有事に際しては、多くのメンバーの協力が必要不可欠です。今年行ってきた防災体制の構築には、メンバーの意識改革、意識醸成の視点が抜け落ちていました。本年に起きてしまった災害の痛ましい記憶と引き換えに、数多のノウハウと支援意識の大切さを繋いでいってもらいたいと思います。

【未来の故郷と JC の在るべき姿を描く】

本年度はいわき青年会議所 20 周年の前年であり、我々は本年度を 20 周年に向けた準備を始める年と位置付けました。我々にとって周年には二つの大きな意味があります。一つ目は関係団体、連携団体や先輩諸兄姉など、日頃よりいわき青年会議所に対しご協力を頂いている方々に、感謝と一層の連携、協力をお願いする事。二つ目は前回の周年から今までの青年会議所の運動を振り返るとともに、20 周年以降のいわき青年会議所がどういった事に取り組んでいくのかを発表すること。本年度はこの中の振り返りの年でありました。前回の周年を知るメンバーは少なくなり、コロナ禍も相まって青年会議所がどんな運動を行ってきたのか分からない会員も増える中、例会の場を利用して過去を振り返る事が出来たと考えます。ただ、過去を理解したのちに、これからどのような事をやればいいのか、まで考えることができたメンバーは少なかったであろうと考えます。これはまちづくりに対する知識と経験の不足が露呈したものであり、20 周年に向け、我々は早急にまちづくり団体としての能力を高めなおさねばならないと考えます。

【結びに】

本年度はコロナ禍が終わり、いわき青年会議所が本格的に活動を再開した年でした。そんな年に理事長職を預かる者として、会員一人ひとりが前向きな気持ちで、やらされるので

はなく自ら行動する団体となってほしい、という想いから「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」というスローガンを決めました。青年会議所に在籍する人は、みな多かれ少なかれ何かを変えたいと思っているはずです。それが自分なのか、会社なのか、地域なのかは人それぞれでしょう。しかし何かを変えたいと願うならば、自らが行動する以外に道はありません。自ら行動し、自ら機会を掴み取った者だけが、成長という変化を手にすることができます。今年、私が自ら挑んだ理事長という役職は、大きな成長の機会として私を育ててくれました。この一年間が会員の皆様にとっても同じ一年であったら、本当に嬉しく思います。故郷や人を想う様々な運動を通して、まちを、人を、故郷を良くしたいと思う人が増えていく事こそが、この青年会議所という団体の最も尊い美徳です。どうかこの想いを繋いでいけるよう、これからも前向きに行動する組織であってほしいと願っています。

公益社団法人 いわき青年会議所 第19代理事長 高橋大吾

(公社) いわき青年会議所 副理事長年次報告

人財育成グループは、「前向きな心を持った次世代に繋がるリーダーの輩出」、「子どもたちの自信と成長につなげる機会の提供」、「多様な会員が共に活動できる柔軟な組織運営」の3つを念頭に活動をして参りました。3年前より続いたコロナ禍という困難な状況から本年は5類に引き下げされたことにより、本来の姿であるJC運動・活動を行いながらも今まで培ったノウハウを活かし、それぞれの情勢に合わせた組織運営と会議の設営を行い、いわき青年会議所運動の下支えをしてまいりました。総務活動におきましては、年初における担いとして新年会を開催させていただきました。3年ぶりのリアル開催ということで、多くの会員・関係団体に参加をしていただけることができ、いわき青年会議所の1年間方針を示せるための式典を実施することができたと感じております。JC活動を締めくくる場である卒業式・卒業感謝ナイトを実施し、卒業される諸先輩方への感謝をメンバーに伝えられるような設えを企画・運営いたしました。

人財育成としては、5月から11月にかけて、若者がまちづくりに興味関心を持ってもらうために、まちづくりに対し主体的に参画できることを理解してもらい、また会員もまちづくりについての理解を深め、まちづくりを担う人財として成長してもらうことを目的として、高校生を巻き込み市長へ提言を行い、高校生にまちづくりに興味関心を持っていただけました。また、市役所の方々からも若者から意見を聞けるいい機会というご意見もいただけて、とてもいい事業を取り組めたと感じました。

今年委員会が行った事業が次年度以降の運動強化につながっていくことに確信し、年間事業報告とさせていただきます。

2023年度 公益社団法人いわき青年会議所 副理事長年次報告

副理事長 野木 崇

本年度組織拡大広報委員会では、多様な会員が活躍できる組織を目指し、基本理念「故郷に希望を示し、誰もが前向きに生きるいわきを創る」のもと1年間活動を行いました。またスローガンは会員の行動指針として「自ら機会を創りだし、機会によって自らを変えよ」を掲げられ、その指針に則り会員の成長と機会の提供を行い、新入会員共々と活動に運動の展開をし、次世代を担う会員の育成に努めてきました。

本年は多様性を重視したところから、2月にJC会員が多様な環境下にあっても、前向きに、JC運動や活動に取り組みたいと思えるよう、様々な環境や視点の違いから、前向きにJCに取り組んでおられた先輩から実例を交えてお話をいただく例会を開催いたしました。これにより、JCと社業を両立させるための意識の向上やモチベーションアップにつなげることが出来ました。

そして7月例会ではブランディングの重要性について、明日から実践できるインナーブランディングを学ぶ機会としました。講師には本会の議長委員長をお呼びして、組織ブランディングはリーダーが形成するものであることから、自身を見つめなおし社業にJCに活かしていただける内容になったものと考えています。

さらに10月例会においては、今までにない交流例会を創るを視点に、新入会員が先導となり事業構築をしていただきました。内容はとても素晴らしく、料理をテーマにチームビルディングを行い、組織の結束力強化につなげることが出来ました。また準備から新入会員が議論を交わすことで親交を深め、今後のJC活動の一助にもなったと考えます。

また広報については、年間を通して会の情報発信に努めてまいりました。ホームページは勿論、各SNSを利用し、新入会員に役割を振り内容を投稿してもらいました。それぞれの発信が相乗効果を持ち、より市民の皆さまに情報が届けられたものと考えます。

そして会員拡大は25名以上を目標に行いましたが、結果20名拡大となり、当初の目標には届かせることが叶いませんでした。ですが入会した新入会員はアクティブが多く、今後の会の中核を担っていく人財に成長することを期待しております。

コロナが明けての1年間でしたが、組織拡大広報委員会として本年とても苦労した部分も多々ありました。拡大は委員会だけでも事ではなく、組織を存続していく為にも必ず行っていかなければなりません。拡大の副理事長を務めさせていただき、その重要性に改めて気づかされました。少子高齢化の時代に大きく拡大することは難しい事かもしれませんが、一人ひとりが意識することが重要です。そして会員が参加し易い環境作りは理事役員が率先して作っていかなければなりません。時代は変わっても人の根源は変わらないものだと考えます。まちづくりだけでなく、ひとづくりも青年会議所の運動でありますので、我々が今年行ったことが次年度以降にも繋がり、組織のさらなる飛躍に寄与することを願い、組織拡大広報委員会の年間事業報告とさせていただきます。

2023年度 公益社団法人いわき青年会議所 副理事長年次報告

青少年育成委員会 担当副理事長 小野卓也

青少年育成委員会は「未来を担う青少年が成長するための機会の創出」、「未来を担う青少年への意識醸成」、「青少年に関わる他団体との連携強化」の3つを念頭に活動・運動をして参りました。まずは、子どもたちに対して、社会構造の変化の中で問題が生じて、しなやかに乗り越えられる力「レジリエンス」身に付けてもらうことを目的に1年活動をする事になりました。まず、子どもたちにレジリエンスを身に付けてもらうためには、私たちが「レジリエンス」を知る必要があり、ストレスケアに精通した海老名悠希様を講師にお招きし、4月例会を開催しました。そして、4月例会の経験をもとに、本番である6月事業にて「いわきたっぷり体験～レジリエンスターはきみだ～」と題し自然体験・昔遊び・ドローンサッカー、保護者向けのレジリエンスセミナーなど多様な体験のできる事業を実施しました。レジリエンスセミナーでは後日、学校団体でも受講したとの連絡があり、少なからず運動の発信にも寄与できたと思っております。最後に、スポまち推進を年通して実施をしました。14件の登録ということで目標20件までいかなかったものの、3年目の推進で14件の登録は今思うと悪い結果ではなかったのではないかと思います。今後もスポーツのポータルサイトとして成熟していってほしいと思います。理事長をはじめ理事役員の皆さま、四家委員長をはじめ委員会の皆さま、そして会員の皆さまに感謝をお伝えし、私の年次報告とさせていただきます。

公益社団法人いわき青年会議所 2023年度 副理事長年次報告

副理事長 熊田 哲也

地域連携委員会では、「いわきの特性を活かしたまちづくりの推進」「市民と共に創るのまちづくり運動の推進」「災害に強いまちづくりの推進」この3つの運動方針のもと、1年間運動を展開してまいりました。

第3回イルミエールいわきでは、「共創のまちづくり」をテーマに、どうしたら市民の皆様が積極的に関わってくれるか、まちのための事業になるかを考え、様々なアプローチを計画しました。まずは、イルミエールいわきの理念や目的を市民へ向けて周知すること、インフルエンサーを活用して若い世代へ向けて周知すること、市民の皆様が活躍できるプラットフォームを提供すること、これらを様々な関係諸団体や関係者を巻き込んで計画したことが、行政といわきJCが一緒になってまちづくりについて考える会議体「イルみち会議」の誕生に繋がりました。その他にも、ほこみち実証実験への協力、いわき駅前パブリックスペース活用実行委員会への参加といった関係各所との関係性の構築、委員会が計画した若者が活躍できるプラットフォームと相まって例年以上の巻き込みに繋がり「共創のまちづくり」が体現できたと考えます。各地との連携に関しては、まだまだ課題はありますが、小名浜まちづくり市民会議に加え、泉商店会、いわき湯本温泉観光協会のように、自主性をもってまちの発展に尽力してくれる団体があったことも成果の一つだと考えます。

災害関連については、2023年度災害組織図の策定に際し、提供できる物資や協力関する意識調査を実施し、反映しました。そこでの意識調査の結果は課題として3月例会でも取り上げました。支援協定先である、いわき市社会福祉協議会、いわき市（危機管理部）との顔の見える関係性の維持、発展を目的として、関係各所からのヒアリングと打合せを重ね、お互いにメリットのある事業の構築になったと考えます。その後の意識調査でも改善が見られ目的を達成することが出来ました。また、いわき市危機管理部の勧めで、防災士の資格取得をしたことは、今後の防災・減災事業に活用できる考え始めた矢先の9月の豪雨災害でした。ボラセン立ち上げの確認から始まったいわき市社会福祉協議会とのやり取りは想像を絶するものでした。短期間で物資の調達、専門知識がないと話にならないこと。そんな状況でも、いわきJCとの支援協定を締結している意味を考え行動しました。それは「JCさん頼りになるね」の一言で不安が自信に変わりました。常日頃から関係性を維持していることが、有事の際には必要であることを改めて実感させられる一年となりました。

最後に、イルミエールいわきでは関係諸団体との多岐にわたる打合せや、それに関連する予算等々、私一人では全てを見切れず、理事の皆様には会議の度に大変お世話になりました。そして、何よりも優秀な委員会メンバーには常に助けられました。時には理不尽な事も言ったかもしれませぬ。9月の発災時はイルミエールいわきの計画の時期でもあり、担当委員会としてボラセン運営に参加できていなかった事を注意したときは、本当に心苦しかったです。それでも

1年間歩みを止めず、最後には素晴らしい事業を実施してくれて、本当にありがとうございました。次年度もいわき市、そして市民に皆様にとって必要な運動の展開を期待して、2023年度の年次報告とさせていただきます。

2023年度 専務理事年間報告

専務理事 本多 史明

本年度、高橋理事長が掲げた『故郷に希望を示し、誰もが前向きに生きるいわきを創る』と、スローガンである『自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ』のもと、組織運営の基盤である事務局・財政局をお預かりし、いわきJCの業務執行理事として1年間務めさせて頂きました。近年、在籍の短期化により経験豊富な会員が減少しているなかで、時代に即した運動展開できるよう次代へと繋がる強い組織づくりを目標に活動をしてまいりました。

まずは、公益法人として運営の中心となる理事向けにセミナーを開催しました。公益法人として守るべき法律を知り、組織体の基礎に関する知識を、理事を中心に伝える事ができたと考えております。ただ、本来であれば会員全員が公益法人としての知識を得る必要性があると考えております。今後も法人格の維持のため、広く会員に向けてのセミナーを開催し、世代交代を経て新しい組織となっても憂いの無い組織になることが必要だと考えます。また、スムーズな会議運営のため、アジェンダシステムの事前意見と対応、その期日管理を徹底し、会議前に様々な意見を出す事で、会議時間の短縮を図りました。事前意見出しについては、会議によってバラつきがあり議案のチェックに時間をかけられるよう、理事は各々向き合っていけるようにしてもらいたいと思います。そして、様々なバックグラウンドを持つ全てのメンバーが前向きにJC運動、活動できるような柔軟さをもった組織を創り上げなければなりません。JCIいわきの規模が小さくなる中で組織を維持するために、様々なツールを使用しながら全メンバーが自分の職務と向き合い、その職責を果たすことが不可欠です。また、公益事業比率の維持をはじめとして、キャッシュフローの計算、未回収会費の積極的な回収など、適切な財務運営に努めました。会員の皆様からお預かりする財源を適切に運営していくことは最重要となりますので財務の管理は適切に行い、必ず公益法人として事業比率に注意しながら運営を行ってください。そして、福島ブロック協議会をはじめとする関係団体との連携について、連絡調整を行いながら、会員の皆様に参加してもらえようように情報を共有させて頂きました。JCIいわきとして日本本会や福島ブロック協議会との連携は必要不可欠であり、重要な事となりますのでこれからも、会員が関われるように運営をしてください。

最後に、専務理事を務めていくなかで、メンバーが力を発揮する土壌を作る難しさや決断する重要性、今まで自分が意識してこなかったガバナンスの意義、事務局・財政局の重要性、その学びを来年のJC運動やJC活動に活かしていきたいと考えます。そして、今日まで支えて頂いた会員の皆様に多大なる感謝を申し上げ専務理事年間報告をさせて頂きます。1年間、ありがとうございました。

2023年度 委員会年間活動報告書

■ グループ名	人財育成グループ		■ 副理事長	三浦 雅裕		
■ 委員会名	総務研修委員会			■ 委員長	小野 隆	
■ 副委員長	小菅 悟			■ 副委員長	柴田 真琴	
■ 運営幹事	新妻 美沙			■ 会計幹事	永山 竜視	
■ 委員	佐藤 辰哉	松山 孝弘	滝口 敦	須貝 公一	小林 豊	
	木皿 将央	有馬 悠二	細谷 純平			

■ 委員会の設置背景

時代の流れとともに変動する人々の価値観、JCメンバーの在籍年数の短期化によりJCIいわきの活動・運動への理解度が低下、更には組織力が低下し我々の運動を展開する力が削がれています。JCIいわきが運動を展開しまちづくりを推進するためには、急激に変化していく時代に合わせながら、JCの理念や存在意義といった運動の根幹にかかわる部分を心から理解できるようにする必要があります。

■ 目的

円滑な組織運営を行いながら、JCIいわきの組織力を高めると共に、JCの理念や存在意義といった運動の根幹にかかわる部分を理解してもらうことを目的とします。

■ 開催事業

日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2023年度新年会					
	[開催場所] PALACE IWAYA(パレスいわや)					
	[事業種別]	他1	[公益性]	無	[対象者]	対外: 関係諸団体、旧5JC、いわきJC <small>OB</small> 会、来訪JC 対内: JCIいわき正会員、特別会員
	[背景、目的]	背景: JC運動は、様々な関係諸団体との関係を深め、連携をとることで、より良いものとなり、かつ円滑に行うことができます。昨今JCIいわきと関係諸団体との交流が減少しているため、交流を図り、より良い関係を深めていく必要があります。 事業目的(対外): 新年会を通じて、関係諸団体に対して2023年度の組織体制と運動方針を発信し、関係諸団体との交流を図ることで、関係性をより深めることを目的とします。 事業目的(対内): 新年会を通じて、2023年度の組織体制と運動方針を発信し、交流を図ることで、良好な関係を築くことを目的とします。				
2023年1月28日(土) 19:00~21:08	[事業内容]	・2022年度の活動報告(オープニングムービー) ・2023年度の運動方針発表(高橋理事長挨拶) ・運動にご理解、ご協力を頂いている方々に向け、感謝の意を伝える場とした ・2023年度理事役員お披露目 ・委員会PRを行い、2023年度の委員会及び方針をお披露目				

日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所5月例会「住み続けたいまちづくり～理想を現実に～」					
	[開催場所] いわき市生涯学習プラザ 大会議室					
	[事業種別]	公2	[公益性]	有	[対象者]	対外: 市内高校生、いわき市民の方々 対内: JCIいわき正会員、特別会員
	[背景、目的]	背景: 若者の人口減少に加え、若者がまちづくりに対して興味を持つ機会が少ないため、今後のまちづくりを担う人財が不足しています。いわき市が持続可能なまちとなるためには、若者がまちづくりに興味関心を持ち、前向きに、主体性をもってまちづくりに参画することが必要であると考え本事業の計画に至りました。 事業目的(対外): 若者がまちづくりに興味関心を持ってもらうために、まちづくりに対し主体的に参画できることを理解してもらうことを目的とします。 事業目的(対内): JCIいわきの会員が、まちづくりについての理解を深め、まちづくりを担う人財として成長してもらうことを目的とします。				
2023年5月28日(土) 13:30~16:10	[事業内容]	【第一部】 ・いわき市の駅前再開発についての担当部署である都市建設部都市計画課、長剛様による講演 【第二部:グループワーク】 ・「いわき駅前再開発」「湯本駅前再開発」の二つをテーマとして、自分たちの理想とする駅前について考えるグループワークを行い、グループごとの発表				

日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所9月例会「住み続けたいまちづくり～理想を現実に～」					
	[開催場所] いわき市議会棟2階 理事者控室					
	[事業種別]	公2	[公益性]	有	[対象者]	対外: 市内高校生、いわき市民の方々 対内: JCIいわき正会員、特別会員
	[背景、目的]	背景: 若者の人口減少に加え、若者がまちづくりに対して興味を持つ機会が少ないため、今後のまちづくりを担う人財が不足しています。いわき市が持続可能なまちとなるためには、若者がまちづくりに興味関心を持ち、前向きに、主体性をもってまちづくりに参画することが必要であると考え本事業の計画に至りました。				

2023年11月10日(金) 17:15~18:25	事業目的(対外):若者がまちづくりに興味関心を持ってもらうために、まちづくりに対し主体的に参画できることを理解してもらうことを目的とします。 事業目的(対内):JCIいわきの会員が、まちづくりについての理解を深め、まちづくりを担う人財として成長してもらうことを目的とします。			
	[事業内容]			
5月例会から各高校ごとにグループワークを重ね、まちづくりに関するアイデアを資料としてまとめ、市長へ提言を行った				
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2023年度卒業式及び感謝ナイト			
2023年12月10日(日) 卒業式:15:45~18:25 感謝ナイト:19:00~21:00	[開催場所] いわきワシントンホテル椿山荘			
	[事業種別]	他1	[公益性]	無
	[対象者]	対外:関係諸団体、旧5JC、いわきJCOB会、来訪JC 対内:JCIいわき正会員、特別会員		
	[背景、目的]	背景:JCIいわきという組織は、先輩方のたゆまぬ努力と功績の積み重ねにより、今現在まで引き継がれてきました。卒業生への感謝の意を表するとともに、新たな門出を盛大にお祝いしたく、本事業の計画に至りました。 事業目的(対外):なし 事業目的(対内):これまでJCIいわきのために尽力頂いた卒業生への感謝の意を表し、新たな門出をお祝いするとともに、盛大に送り出すことを目的とします。		
[事業内容]	「卒業式」 ・卒業生の生まれ年の動画(オープニングムービー) ・卒業証書授与及び花束贈呈 ・送辞、答辞 ・卒業会員活動スライド上映 「感謝ナイト」 ・記念品、目録贈呈			

■ 年間計画の実現と成果

年間計画については、概ね年間計画に沿って実施することができたと考えます。
 新年会:3年ぶりの新年会の開催となりましたが、滞りなく、新年度体制の発信、関係諸団体との交流を図ることができました。
 5月例会:湯本高校3年生、1年生、桜が丘高校、福島高専の生徒に参加いただき、若い世代にまちづくりに関する興味関心を得てもらうことができ、会員としても改めてまちづくりについて考える良いきっかけとなったと考えます。
 9月例会:豪雨災害による被災対応を優先するため、11月に延期となりましたが、5月からグループワークを重ねた結果を直接市長へ提言することができ、まちづくり団体として次年度以降に繋がる事業になったと考えます。
 卒業式:事前準備の不足、卒業生に対する配慮が欠けており、反省の残る結果となりました。

■ 次年度以降へに引継ぎ事項

新年会、卒業式については、各年度ごとの特色を出すことで、新鮮さを演出することができますが、何よりも重要である本来の目的を常に意識し、事前の準備、設えを行ってください。誰が主役であるのか、誰に対する発信を行うのか目的を意識し各場面を想定することで、想いの伝わる会になると思います。
 5月例会、9月例会については、今後に繋げていただきたい事業となったと思います。アイデアを出したり、資料をまとめる作業は生徒によっては難しい面もあるため、今後どのような形で事業を行うにしても、細目に連絡を取り合い高校生任せにせず、ある程度着地点を想定し、導いてあげることが必要と考えます。

■ 委員長所見

新年会、卒業式という重要な事業に加え、まちづくりに関する公開の研修事業を担当させていただき、体外参加者を招く事業の重要性、難しさを強く感じました。我々は公益社団法人としてどのような運動を展開していくべきなのか、誰に対して何を伝える必要があるのか、目的を意識することの重要性を深く考えさせられる委員会でした。今後事業を行う上で会員の皆様にも改めて目的の重要性、意味を考えて事業構築を行っていただければと思います。
 5月、9月事業に関しては、まちづくり団体として我々は何ができるのか、まちづくりとはそもそもどのような運動を行うのか等、私個人としても大変勉強させていただきましたし、JCIいわきとしても一般の方々を巻き込む運動として、今後に繋がる良い事業ができたと感じております。事業をとおして、まちづくりは多くの方々を巻き込み、特に若い世代に興味関心をもっていただくことが重要と感じましたので、是非次年度以降に繋げていただければと思います。
 委員長として1年務めさせていただきましたが、今振り返ってみると委員長として至らない点が多々あったと感じております。我が身で精一杯で、委員長として委員会を取り纏め、役割を与えたり、参加の声掛け等充分ではありませんでした。ただ、今そう感じているのは委員長の職を通して、様々な経験したおかげで成長に繋がったからでもあると考えます。次年度以降この経験や想いを他の会員へ伝え、またさらなる成長を求め取り組んで参りたいと思います。

2023年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	組織拡大グループ		副理事長		野木 崇	
■委員会名	組織拡大広報委員会			■委員長	鈴木 幸始	
■副委員長	佐藤 亮介			■副委員長	松本 裕亮	
■運営幹事	及川 昌哉			■会計幹事	松本 進	
■委員	若松 祐樹	近藤 哲史	渡部 安彦	鈴木 隼人	本多 綾	
	小澤 楓	本間 亮平	一ノ渡 崇弘	熊田 舞弥	北嶋 裕介	
	中川 優寛	渡辺 啓一郎	遠藤 勝弘	柏 義男	草野 潤	
	藤岡 隼	楠 公輔	四家 凌一	清井 清弥	鈴木 達也	
	木村 俊太郎	俣田 辰寛	山内 健	吉田 智徳	西原 亮	
	徳能 崇晃					

■委員会の設置背景
 ①JCIいわきでは会員減少や在籍年数低下の問題が続いており、継続的な会員拡大を行っていかねば、地域の発展へと寄与する人材が減り、JCとしての目的を果たし続けることが難しくなることが予測されます。
 ②JCIいわきは日々運動発信をしているが、情報発信が足りない現状があります。誰でも発信ができる時代だからこそ、JCIは率先して発信を行い、そしてJCの運動や活動を広く推進する必要があります。

■委員会の目的
 ①新たな会員の発掘、その育成をすることで青年会議所を支えるメンバーを増やすことを目的とします。
 ②JCIいわきを広報し、全メンバーで青年会議所運動を推進していくことで共感される組織を作ることとします。

- 委員会基本方針**
- ① 他委員会と連携した会員拡大活動、拡大につながる情報のとりまとめ
 - ② 新入会員オリエンテーションの企画・運営
 - ③ 会員資格審議委員会との連携による組織力の向上
 - ④ 会議・委員会と連携した情報の発信
 - ⑤ いわきJCホームページ・公式SNSの運用および管理
 - ⑥ WEBを活用した情報発信の調査・研究・検証
 - ⑦ 会員拡大につながる情報の収集と共有および拡大活動
 - ⑧ 社業に繋がる活動

■開催事業	
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2023年度広報推進計画
2023年1月1日 ～ 2023年10月31日	[開催場所] 無
	[事業種別] 他1 [公益性] 無 [対象者] いわき市民
	[事業趣旨] ①JCIいわきが市民の皆様に関心を持っていただき、活動や運動へ共感を得ることを目的としました。 ②情報を発信する当事者のひとりとして、共感を与える行動を意識してもらうことを目的としました。
[事業内容]	現在運用している公式サイトやSNSを新入会員らしい新しい感性や色のついていない外部的な視点などを活かして投稿や発信を行い、新入会員も含めた会員同士でフォローしあうことで、相乗効果として拡散させていただきました。また、各メディアの活用も踏まえ、市民の皆様と共感しあえる双方向コミュニケーションを模索していきました。
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2023年度会員拡大計画
2023年1月1日 ～ 2023年8月31日	[開催場所] 無
	[事業種別] 他1 [公益性] 無 [対象者] 会員候補者
	[事業趣旨] ①:会員拡大へ繋がる活動の中で入会候補者を発掘し、入会へ結びつけることを目的としました。 ②:既存会員と新入会員が共に活動し、JC運動への共感を共有することを目的としました。
[事業内容]	①:OBの先輩方や各経済団体との交流、情報交換など、また、広報計画と併用することで、会員拡大に繋がる情報を積極的に取得や発信をしていきました。 ②:入会後のアフターフォローを重要視し、新入会員オリエンテーションや勉強会などを拡充していきました。
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2023年度2月例会開催計画
	[開催場所] いわきPIT

2023年2月15日	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]	JCIいわき正会員、特別会員
	[事業趣旨]	JC会員が多様な環境下にあっても、前向きに、JC運動や活動に取り組みたいと思う機会の創出を目的としました。				
	[事業内容]	前向きに、JC運動や活動に取り組みたいと思うためにはどうしたら良いか。今後、JCIいわきが多様な人財を活かすために、個々人で前向きに取り組むことへのきっかけとなり得る事業を開催しました。				
日時	[事業名]	公益社団法人いわき青年会議所2023年度7月例会開催計画				
2023年7月14日	[開催場所]	いわき市生涯学習プラザ				
	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]	JCIいわき正会員、特別会員
	[事業趣旨]	「ブランディング」の重要性を知ることで、自身の生業に活かしていくための意識の醸成を図ることを目的としました。				
[事業内容]	ビジネスの多様化が進む今、自身の生業が生き残るためには、競合との差別化は重要なテーマとなります。本例会では個性やアイデアを活かし生業を成長させる上で、ひとつの手法として「ブランディング」について学ぶ事業を開催しました。例会は二部構成とし、第一部では、主にアウターブランディングの定義や意義について調査研究し、実例を交えながら考察した内容を発表しました。第二部では、ブランディングの重要性や、個人・組織がブランディングするために必要な手法、生業に活かせる総合的なブランディングについてご講演していただきました。					
日時	[事業名]	公益社団法人いわき青年会議所2023年度10月例会開催計画				
2023年10月18日	[開催場所]	いわき市文化センター				
	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]	JCIいわき正会員、特別会員
	[事業趣旨]	達成感から会員同士の絆と結束力が生まれることにより、力強い組織を創り出すことを目的としました。				
[事業内容]	本例会では、「料理」を通じて、調理工程をグループで考える時間の「交流」、さらには、調理中も助け合いながら料理を完成させる「達成感」を新入会員が主となり考え開催することで、会員同士の交流を図り柔軟さをもった組織創りを創出しました。また、素晴らしい「いわき産」の食材を多く使用することで、会員が故郷に希望を示せる原動力の一助になると考え開催しました。					

■年間計画の実現と成果

広報推進計画:

登録者の増加率に関しては、平均10%未満と決して良好な結果ではありませんでした。

こちらに関しては新たな層の登録者を開拓することができず、横ばいとなってしまったのが原因であり、今後は如何に新しい層を取り込んでいくかが課題であると考えます。

会員拡大計画:

目標値25名以上に対して20名と委員会としては決して納得いく結果ではありませんでしたが、入会していただいた新入会員が良質であったこともあり、次年度以降に繋がるメンバーを揃えることができました。

また、オリエンテーションへの既存会員の立会い、または講師対応に関しては初回に関してのみ理事長に講師を行っていただくに留まりましたが、委員会の日程調整、新入会員の日程調整、オブザーバー(または講師)の日程調整を同時に行うことが難儀であり、日程を固定して計画建てるなど、やり方を考えていく必要があります。

2月例会開催計画:

例会受講者の83%が機会に対して、前向きに向き合いたいと意識に変化がありました。この結果はJCIいわきの今後を考えた上で、実に心強い変化であると考えられ、この前向きな意識が後転しないように、会員に盛り上がりが見られるような仕掛けを行っていく必要があります。

7月例会開催計画:

例会に参加した会員、及びアーカイブを試聴した会員の97%が自身の生業において、ブランディングが必要であるとのアンケート結果になりました。JCIいわきには様々な生業の会員がおりますが、どの生業においてもインナーブランディング、アウターブランディングそしてリーダーシップの重要性を理解できたと考えます。

10月例会開催計画:

例会に参加した会の92%が、本例会を通じ会員同士の交流ができたとのアンケート結果になりました。JCIいわきに所属する会員が、料理を通じて絆を深め、結束力を生み出すことに成功しました。

■次年度以降への引継ぎ事項

広報推進計画:

2023年度は各SNSの新規フォロワー数30%増を目標に進めてまいりましたが、結果的には最も増加したInstagramでも約22%増に留まり、X(旧Twitter)とFacebookに至っては一桁率の増加となってしまいました。
配信内容や配信ペースに関しては各SNSともに相違はないと考えられますので、元々フォロワー数が多かったため伸び代がなかった媒体と少なかつたため伸び代があった媒体との違い程度であったと考えます。
なお、Instagramに関してはイルミエールいわきのフォトコンテスト、スタンプラリーの影響でフォロワーが増加したことも留意が必要であり、イベント事も新規登録者獲得のチャンスであると考えられます。
2023年度のSNS発信の反省点としては、各配信記事に伝えたい相手であるターゲットを明確に意識しなかったことにあり、結果的に新しい層を取り込むことができなかつたものと考えられます。
例えば、ターゲットを学生に絞った内容を定期的に発信したり、高齢者をターゲットにしたものを発信することで、それまでJCIいわきを意識していなかつた層のフォロワーを獲得することが出来たのではないかと考えています。
また、拡大が意識した発信をすることで拡大対象者となり得る層からの反響も得ることができ、継続することで新規入会へ結びつくチャンスも巡ってくる可能性があります。
結果的には対外広報のつもりが、大方対内、または関係者への報告になってしまい、広くJCIいわきを知ってもらう広報に繋がっていません。
次年度以降は是非、発信のターゲットを明確にした発信を模索していただければと考えております。

会員拡大計画:

新規入会者25名以上を目標に掲げスタートした2023年度でしたが、1月から8月まで拡大活動を実施した結果最終的には20名という結果となり、目標値80%に留まりました。
2023年度はまさに「コロナが明けた年」という表現が相応しいと考えられ、何ら制限をなく、入会候補者との面談をセッティングすることができ、先方に関しても対面でお会いすることへの抵抗感を示されず進めることができました。
また、面談時に入会後参集での会合が多数存在する旨を説明させていただいても、違和感なく受け入れていただくことができた印象です。
2023年度は拡大活動をする土壌が以前に戻り、積極的に取り組む機会が高まった年であったと考えることができます。
しかしながら、結果として20名の入会者に落ちてしまった原因については、長く続いたコロナ禍によって拡大対象者の発掘行為を一定期間停滞させてしまったことによる対象者のストック不足にあると考えられます。
次年度以降は拡大対象者の発掘行為に重点を置いていただき、時間を掛けてでもストックを増やしていく必要があります。
拡大対象者は直ちに入会へ結びつくものではありませんが、年度を跨いだ継続したコンタクトを重ねることで結果に結びつく要素となりえると考えています。
また、良い面を挙げさせていただくと、2023年度の新入会員はコロナからの解放による参集での懇親機会の増加によって比較的アクティブで前向きなメンバーとなつていただけたことができたと考えます。
こちらについては次年度以降の組織にも大きな影響があり、2024年度組織図(案)上も、スタッフ以上のクラスに明確な勢力を保ち、今後のJCIいわきに必ずや好影響を与えてくれると確信しております。
そういった観点から拡大を考えたときに、入会人数だけが必ずしも重要ではなく、入会者の質にも拘った拡大を次年度以降には期待したいと考えており、また、良質な新入会員を無駄にしないようアクティブになれるような懇親機会や発言機会を是非提供していただきたいと思います。

2月例会開催計画:

例会を通じて、大多数のメンバーがJCでの機会に対して、前向きに向き合っていると思える地盤は整ったと、回答をいただき委員会としては本例会を設えるに当たって、様々検討し、意図してきた通りの結果となりました。しかしながら、一部のメンバーは「どちらでもない」と、変化を感じておらず、これらのメンバーの意識に変化を創出することが今後の課題であると考えます。また、今回、本例会を通じて、前向きに近づいたメンバーに関しても、その熱が冷めないようなアプローチを継続していくことがJCIいわきの活性化に繋がっていくと考察しました。
公約に関しては、集計の通り、各グループの得点は概ね横並びとなっており、いずれの公約についても「求められている」、または「受け入れることができる」と読み取ることができます。厳密には家族(パートナー)向けや子ども向けに関しては若干低めに出ており、この部分がまさにそれぞれの家庭環境や考え方が反映されており、今回のテーマのひとつである「多様性」との向き合い方に繋がっていく部分であり、今後も多様なメンバーと共に活動していくため、こういったデータを定期的に取得、活用していければと考えています。
事後に先輩方よりお話を伺ったところ、全体的には現役当時から在籍していたメンバー、卒業後に入会した新しいメンバー、それぞれと交流ができたことを大変喜んでいらっしゃいました。また、運営面に関しては、事前に先輩方同士で内容の摺合せをする場面の設定が必要であったとおっしゃっていました。委員会として、それぞれ個別の打合せはさせていただきましたが、先輩方同士で講演内容を摺合せする場面の設えまで配慮できなかったことは反省すべき事項であり、今後は先輩方如何に関わらず、複数の講師をお呼びする場合は当事者同士での打合せの場面を設える必要があると考えています。

7月例会開催計画:

例会を通じて、大多数のメンバーがブランディングの重要性に気づき、必要性を実感していただけたという回答をいただきました。JCの例会を通じて、メンバーが新しいことをご自身の生業に取り入れ、企業や個人を成長させることができれば、経済団体としての青年会議所としても、対内への、そして、対外へのブランディングが成功したと考えることができます。JCとしては、今後も社業に繋がる活動として、様々なテーマを検討し、例会や勉強会を設えていく責任があると考えています。

10月例会開催計画:

例会を通じて、大多数のメンバーが会員同士の交流ができたことと実感していただけたという回答をいただきました。例会を通じて、絆と結束力が生まれれば、持続可能な組織運営が可能となると考えます。JCとしては、今後も組織力向上に繋がる活動として、様々なテーマを検討し、会員の結束力を強化する場を設えていく必要があると考えています。

■委員長所見

広報推進計画:

われわれの活動は世間に理解され、評価されることで運動へ繋がっていきます。
しかしながら、活動を知ってもらうことすら出来なければ、世間を巻き込むことはできません。
われわれの活動を世間に周知する取り組みが「広報」だと考えます。
是非、さまざまなアイデアを持ち寄り、より良い広報を模索していきましょう。

会員拡大計画:

拡大活動は担当委員会だけのモノではありません。

担当委員会はあくまで、拡大対象者、入会候補者の集計や調整、新入会員へのフォローを行うにすぎないことが理想であります。現在80名前後の会員がそれぞれ、1年間を通じて、わずか1名ずつ、入会させてくれるだけでJCIいわきの規模は2倍になれます。わずか1名、決して難しいことではないと考えます。

是非、会員全体での拡大活動をこれからも模索していきましょう。

2月例会開催計画:

例会を通じて、JC会員が多様な環境下にあっても、前向きに、JC運動や活動に取り組みたいと思う機会の創出を目的としていました。

まず、事前アンケートとして、メンバーの現状を把握するところから始めていくことで、現在JCIいわきで抱えている改善点や各会員個人々の環境を会として整理し、理解することができたと考えます。次に、同じような環境、同じような悩みを以って活動された先輩方を講師として選定したことで、より会員の実態に即したお話をいただくことができた為、外部講師では創り得ない共感を感じ取っていただけたメンバーも多く、今後の参考となり得るディスカッションができたと考えます。最後に、会員一人ひとりが自ら前向きになる為の環境創りに知恵を出していただいたことで、自分事としてのJCIいわきを意識するキッカケとなった為、今後自らの職責を全うしたいと思う機会を創ることができたと考えます。

これからのJCIいわきには、慣習に囚われることなく、メンバーの皆さまがお互いの環境に少しずつ気持ちを寄せることで、皆が前向きに、JCに向き合える組織となっていくことを期待しております。

7月例会開催計画:

例会を通じて、ブランディングの重要性を知っていただき、ご自身の生業に活かしていく意識の醸成を目的に開催しました。

一般的にブランディングと聞くと、アウトターブランディングのイメージが強く、ご自身の生業では、無縁であると考えの方が少ないと考えます。

しかしながら、ブランディングには様々な考え方がございます。今回は対内的なブランディングも存在することを知っていただくことで、例えば、多様性に配慮した組織創りであったり、ご自身のリーダーシップを演出することなどにも活用していただけることをご提示することができました。JCという業種職種に偏りのない団体であるからこそ、インナーブランディングの重要性が心に響き、無縁であると考えていた方も、新しい感覚とアイデアが芽生えたのではないかと考えます。

青年会議所という青年らしい柔軟な対応ができる団体だからこそ、これからも会員の皆さまに新しい刺激と情報を与える機会を提供していただきたいと思います。

10月例会開催計画:

新入会員による企画で、達成感から会員同士の絆と結束力が生まれることにより、力強い組織を創り出すことを目的に本例会は開催されました。

本例会の企画から、準備、設営、運営まで、細部に至るまできめ細やかに検討された設えを拝見するに、しっかりと話し合い、計画立てを行い、本例会に本当に向き合っていたのがよくわかる内容でした。

本例会は新入会員の皆さまが主体的に進めていったことで成し遂げることができたわけですが、これらの成果がまさに表れているのが次年度の組織図であり、次年度以降も在籍することになる本年度の新入会員16名中、11名がスタッフ以上のポジションに名を連ねています。

この事実からも本例会の次年度以降に繋がる「力強い組織を創り出すこと」は、まさに成功であったと考えることができます。

次年度以降も同様の例会があると考えられますが、引き続き当年の新入会員にゼロから検討してもらい、是非その年の成功体験を感じ取っていただければ、既存会員の皆さまには取り計らっていただきたいと思います。

2023年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	青少年育成委員会	■常任理事	小野卓也	■室幹事		
■委員会名	青少年育成委員会	■委員長	四家 麻未			
■副委員長	佐藤 健二	■副委員長	草野 祐介			
■運営幹事	清野 仁孝	■会計幹事	地引 勇太			
■委員	栗城 佳次	藤岡 伊万里	山口 宗之	伊藤 康範	平子 善一	
	椎名 勇貴	庄司 雄太	渡辺 勇樹			
■委員会スローガン						
■副理事長運動方針	<p>①社会の変化が急速に進み、予測が困難な時代になっている中、子どもを取り巻く環境は著しく変化しています。社会の変化に主体的に向かい合い、子どもたちの折れない心、逆境に負けない心を育てることが必要と考えます。</p> <p>②JCIいわきはスポーツを通じて公共施設の活性化の一助となるべく「スポまっちいわき」を開設しました。公共施設の利活用のためにスポーツ競技の活性化が必要と考えます。</p>					
■委員会基本方針	<p>①社会環境や変化に柔軟に対応できる「たくましい子ども」への成長を促し、将来を切り拓く力となることを目的とします。</p> <p>②市民をはじめ、青少年に対して様々なスポーツ競技に体験できる機会の創出し、スポーツ競技の活性化をもとに公共施設の利用頻度の上昇に繋げることを目的とします。</p>					
■開催事業						
日時	[事業名]	スポーツマッチングサイト「スポまっちいわき」2023年度推進事業				
2023年3月1日 ～ 2023年9月30日	[開催場所]	いわき市内全域				
	[事業種別]	公1	[公益性]	有	[対象者]	正会員、特別会員、いわき市民
	[事業趣旨]	登録チーム数を増加、登録チーム同士のマッチングを成立させ、スポーツ団体のポータルサイトとしても活用し、スポーツ競技参加への一歩となることを目的とします。				
	[事業内容]	<スポーツマッチングサイト「スポまっちいわき」の推進運動> ・スポーツチームの登録 ・スポーツチームのマッチング				
日時	[事業名]	4月例会【しなやかに折れない心レジリエンスとは？】				
2023年4月14日	[開催場所]	いわき市文化センター				
	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]	正会員及び特別会員
	[事業趣旨]	<input type="checkbox"/> JCIいわきメンバーが、レジリエンスとは何かを理解し、レジリエンスの高め方を学ぶことで、ビジネスシーンや日常生活など幅広い場面で活用できる力を習得することを目的とします。				
[事業内容]	<第一部> 講演 ～今の私たちに必要な力「レジリエンス」とは～ 講師 海老名 悠希 様 <第二部> レジリエンスの理解を深めたうえで、6月に開催される青少年事業の告知を実施。					
日時	[事業名]	いわきたっぷり体験 ～レジリエンスターはきみだ！～				
2023年6月24日	[開催場所]	いわき平コミュニティ会館				
	[事業種別]	公2	[公益性]	有	[対象者]	いわき市民、いわき市内の小学生4～6年生、正会員・特別会員
	[事業趣旨]	対外的には、子どもたちが様々な体験を通してレジリエンスを高め、体験の重要性を理解することで、今後も積極的に体験の機会へ参加する意識が醸成されることを目的とします。 対内的には、多様な体験の重要性を理解しレジリエンスの高め方を学んだJCIいわきメンバーが、本事業を通して地域社会への確に伝えられる人財になることを目的とします。				
	[事業内容]					

滝富士登山、ドローンサッカー、ペア読書、昔あそび等の多様なたっぷり体験を実施。

■年間計画の実現と成果

年間計画については、年間計画に沿って実施することができたと考えます。

スポまっち:チーム登録は20件目標のうち16件登録と、目標には達成しませんでした。スポまっちがきっかけで大会が開催されたり、実際にマッチングが行われました。スポーツマッチングサイトとしての可能性を感じられたと思います。

4月例会:レジリエンスの重要性について、実際に体を動かし体験を行いながら知識を習得することで理解が深まったと考えます。

たっぷり体験:参加人数は目標人数には届きませんでしたが、参加した子供はとても楽しんでくれており、会員や参加した子供たち及び保護者には「レジリエンス」の重要性や、多様な体験の重要性は伝わったと思います。

■次年度以降へに引継ぎ事項

スポまっちについて サイト登録については年初に管理者メンバーの更新及び登録作業の確認を行うなど年間の細かな予定表を作成しておくとういと考えます。会員全体に当事者意識を持ってもらうために、委員キャパバンの実施や公開例会等で推進の意義を周知するなどを工夫が必要です。チーム登録については大会への訪問が効果大です。また、登録チーム数が増えてきたこともあり、マッチング件数の増加やサイト閲覧数の検証等を検討してください。

例会について 講演内容によっては、青年会議所への馴染みがない講師を選定するケースもあると思いますが、講師との打ち合わせを念入りに行い会員へ意義のある内容となるよう準備をすと良いと考えます。

青少年事業について 参加者募集の告知開始から締め切りまでの期間が短く苦労しましたので、募集期間は長めにとるといいと思います。

■委員長所見

青少年の事業は一丁目一番地と先輩方からよく話を聞いていましたが、未来のいわき市を担う子どもたちを健全に育てていく責任が大人や地域社会にはあるということ強く感じる1年でした。青年会議所の1年は、長いようで短くて、上半期に事業が詰まっていたこともあり、もっと心と時間に余裕をもって十分な調査研究を行えばよかったという気持ちがあります。PTA役員をしているOBや会員も多いですし、いわき市の子供たちに必要なことを追求して提案できればよかったです。至らぬ点の多い委員長で、たくさんの方にご心配をおかけしてしまっただと思います。理事の皆様、委員会メンバー、OB、家族、職場の仲間等、たくさんの方に支えていただき、なんとか1年終えることができました。これからも青年会議所が、子どもたちのために、自分たち自身の足で未来を切り開いていくことができる人材へとような運動を行っていけるよう、微力ながら貢献していければと考えております。1年間青少年育成委員会の委員長を務めさせていただき、本当にありがとうございました。

2023年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	人財グループ		■副理事長	熊田 哲也		■室幹事		
■委員会名	地域連携委員会			■委員長	栗林 美沙			
■副委員長	松本 貴直			■副委員長	大滝 真優			
■運営幹事	小笠原 慶			■会計幹事	佐藤 修一郎			
■委員	井塚 雄三	鈴木 祐介	木村 敏史	高宮 暢昭	鈴木 拓也			
	佐藤 充	吉田 寛和	清宮 由雅	駒木根 佳範				
■委員会スローガン								
■運動(運営)方針	<p>① いわきの特性を活かしたまちづくりの推進</p> <p>② 市民と共に創るのまちづくり運動の推進</p> <p>③ 災害に強いまちづくりの推進</p>							
■委員会基本方針	<p>① 災害支援協定に基づく、行政や関係団体との連携</p> <p>② 他団体と連携したまちづくりの調査・研究および実施</p> <p>③ 第3回イルミエールいわきの企画・運営</p> <p>④ 市民とともに創るまちづくりの推進</p> <p>⑤ 会員拡大に繋がる情報の収集・集約</p> <p>⑥ 社業に繋がる活動</p>							
■開催事業								
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2023年度3月例会「ACTION! -状況判断力の向上-							
2023年3月17日	[開催場所]	イオンモールいわき小名浜						
	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]	正会員、特別会員、いわき市危機管理部、いわき市社会福祉協議会		
	[事業趣旨]	<p>対外目的を、いわき市及びいわき市社会福祉協議会とJCIいわきが災害時に連携できるよう、互いに顔の見える関係性を築くこととし、対内対象者には災害に直面した際に、協定先と連携しながら迅速で適切な行動を取ることができるよう、状況判断力を養うことを目的としました。</p>						
	[事業内容]	<p>協定を結んでいたことで災害時に迅速に対応できた事例を共有しました。そして、事例を踏まえて自分たちが有事の際に、協定や防災・減災に関する知識を活かし、どのような行動をとることができるかをグループワークで学びました。グループワークを行う際には、災害組織図に則った支援が出来るように、状況の理解と判断に必要な知識を習得できる設えとしました。</p>						
日時	[事業名] 第3回イルミエールいわき							
2023年5月1日～ 2024年1月8日	[開催場所]	市内各地						
	[事業種別]	公1	[公益性]	有	[対象者]	正会員、特別会員、いわき市民		
	[事業趣旨]	<p>各地域、そこに暮らす市民との連携を通じて、「共創のまちづくり」に積極的に携わることを目的としました。</p> <p>対外対象者に対しては、地域を活性化していくために、「共創のまちづくり」に対する背景や目的、コンセプトを明確にすることで賛同者を増やし、市民一体となってまちづくりを行っていくことを目的としました。</p>						
	[事業内容]	<p>広報：SNSアカウントの作成・運用 / 協賛活動用チラシの作成・配布</p> <p>LED設置：連携団体とのLED設置</p> <p>点灯式・副事業：同時点灯式の開催 / 各連携団体、協力団体と飲食店・ステージイベントの開催</p> <p>スタンプラリー・フォトコンテストの開催</p>						
日時	[事業名] 2023年度災害組織図							
2023年1月1日～ 2023年12月31日	[開催場所]	なし						
	[事業種別]	報告	[公益性]	無	[対象者]	正会員、特別会員、いわき市危機管理部、いわき市社会福祉協議会		
	[事業趣旨]	<p>有事の際に、利他の精神を持ち、迅速かつ適切な行動を取れるよう、各自が自身の役割を理解することを目的としました。</p>						
	[事業内容]	<p>2023年度に運用できる災害組織図の更新</p>						

■ 年間計画の実現と成果

年間計画：概ね年間計画に沿って実施することができましたが、第3回イルミエールいわきの点灯式・副事業に関する議案の上程は9月に一部審議を取り、10月に全体審議へと変更しました。

3月例会：支援協定について会員が学ぶ場を提供し、さらに支援協定先との顔が見える関係性づくりができました。

イルミエールいわき：昨年度までに各種SNSを用いて情報発信を行いました。市民目線で発信できなかったことについてもっと工夫が必要であったと考えます。

災害対策組織図：9月に災害支援活動があった際に充分機能していなかったことから、今後は実態に伴った組織図の策定が必要です。

■ 次年度以降へに引継ぎ事項

災害対策においては、災害支援活動の実態に即した組織図策定を重視し、適切な機能を確保するための具体的な対応を計画する必要があります。これにより、いつ起きるか分からない災害時に、より効果的で迅速な支援体制を整えられると考えます。

また、市民との連携を深めるため、「イルミエールいわき」の事業の情報発信において、より市民目線のアプローチを取り入れる必要があります。SNSを活用した情報発信において、より魅力的で参加しやすいコンテンツの発信を図り、市民の参画を促進する方を模索するのが今後の発展に必要であると考えます。”地域連携”を担う委員会の役割として、行政や関係団体との連携を強化し、災害時の迅速な対応に加え、市民とともに創るまちづくりの推進を通じて、より市民の皆様のためになる事業を行っていく必要があります。

次年度ではアンケート結果やヒアリングから分かる改善点を活かし、より包括的で効果的なまちづくりの推進を計画して行く必要があると考えます。

■ 委員長所見

当委員会の使命は、いわきの特性を生かし、市民とともにまちづくりを推進し、災害に強い地域を築くことです。これまでの取り組みから、本年度は災害支援協定に基づく連携や他団体との連携、そしてイルミエールいわきの企画・運営など、地域と連携しながら市民が主役となるまちづくりに重点を置きました。上記の通り、3月の例会では災害時の状況判断力向上を目指し、災害支援協定に基づいた行動を学ぶ場を提供しました。イルミエールいわきでは、SNSを通じた情報発信を強化し、共創のまちづくりを目指しましたが、まだまだ改善すべきところが多く、実現には至っていないことから、より市民目線でのアプローチを行っていませんでした。災害組織図の更新においては、災害時の実態に即した組織の必要性を再確認し、今後の改善が必要だと考えます。次年度に向けて、これらの取り組みをより効果的に展開するため、市民との緊密な連携とより的確な情報発信の必要性を再認識しています。さらなる市民参加と地域社会への貢献を目指し、災害対策やまちづくりの基盤を強化していくことが重要です。課題に真摯に向き合い、次なる段階に向けた計画と改善を進めていくことが必要です。